

司会者 林崎 恭子（旭川市立春光小学校教諭）
助言者 渥美 伸彦（北海道教育大学旭川校准教授）
菅原 整（旭川市立陵雲小学校校長）

I 授業の部会から ※主なものを抜粋

研究について

- ・問い直しと振り返りとは何が違うのか。
- 問い直しとは、「自らの対象と言葉，言葉と言葉の関係を，創造的・論理的思考，感性・情緒，他者とのコミュニケーションの側面から，言葉の意味，働き，使い方等に着目して捉え，その関係性を問い直して意味付ける」ということである。振り返りは，学習後に自らの学びを振り返ることである。
- 4年生の授業では，組み立てメモの筋道（創造的・論理的思考）と1年生に伝わるのか（他社とのコミュニケーション）という2つの観点から組み立てメモを見直したため，見直すべきことが多くなってしまった。何を問い直すのかを焦点化していく必要があるとともに，カリキュラムに系統的に位置付けていく必要があると考えている。



4年生の授業について

- ・見直す活動の前に提示された3つの見直す視点を，子供たちは活用しながら見直し意をしていた。
- ・先生から子供たちへのアドバイスカードがとても有効に働いていた。
- ・「付箋の使い分け」ということが子供たちにどの程度伝わっていたのか。「ゆっくり話す」などのアドバイスをしている子もいた。アドバイスの視点を伝えた方がよかったのでは。
- アドバイスの視点は伝えていたが，発表のリハーサルを見ながら付箋を書いたので，視点がぶれてしまったところがあった。
- ・理由や例を挙げることについて，何か規準が必要ではないか。
- 単元の導入時に，教師の発表例を比較することを通して理由や例を挙げることについての規準は伝えている。

2年生の授業について

- ・意見交流の仕方がよく，普段の学習の積み重ねを感じた。
- ・アドバイスシートで見通しをもつことができていた。また，自己評価をすることができていた。
- ・アドバイスシートによって論点が明確になっていたので，児童同士の対話につながっていたと思う。
- ・ありのしたことというのは，何個と押さえていたのか。
- 今日求めているところは3つである。「見付ける」「巣へ運ぶ」「捨てる」の3つが出ればよいと考えていた。ただ，「すみれとありの関わりで必要だ。」という理由があれば，「白いものを食べる。」ということも入れて4つでもよいと考えていた。

Ⅱ 助言者からの講評 ※要点のみ

(1) 渥美 伸彦 准教授から

新学習指導要領では、未知の問題にも対応できる思考力・判断力・表現力を育成することが求められている。そのような中で、思考力・判断力・表現力を育てるために、思考・判断・表現を問い直すということに取り組んでいる本校の研究はとても価値があるものだと思う。

対話的な学びについて

対話に個を埋没させないことが大切である。4年生の授業では、例えば、1人1人にアドバイスを作らせてからグループで話し合う、ペアグループを作ってアドバイスをし合うなどの方法を取ることで、より個の力が発揮される対話になるだろう。

深い学びについて

しっかりとした思考や判断をさせていくためには、そのための教師の手立てが大切。2年生の授業では、それぞれの児童が言っていることがどう違うのかを視覚的にすると、「みんなどう思う？」と聞かれたときに、児童がしっかりとした思考や判断をすることができた。「見える化」をしていくと、深い学びは充実していく。

主体的な学びについて

主体的な学びで大切なのは、「不思議だ。」「伝えたい。」という子供の情動的な反応や思いを生かすことである。4年生の授業では、子供たちは「宝物を伝えたい。」ので、説得的な文章になる。しかし、教員が提示していたのは「調べたことを、発表しよう。」である。このカテゴリミステイクの辻褄が合うと、よりよいのではないか。2年生の授業では、「不思議」ということを大切にしたい。例えば、単元末の活動を、「不思議」を伝えるクイズにしてその答えで生き物の行動の不思議さや生き物と生き物の関係の不思議さを伝えるのであれば、行動を整理する必然がある。

最後になるが、研究主題の「自らの言葉を探究する言語活動」という言葉がよい。ここが今の国語科の弱いところだと思う。言葉を探究するとは、どういう具体的なイメージなのかということをも3年間で明らかにしつつ、研究を進めてほしい。

(2) 菅原 整 校長から

子供たちの思考は、目には見えない。私たちは、風鈴が鳴ることを通して風が吹いていることを知る。同じように、私たちは子供の言葉を聞いて、子供の思考を知るのである。だから、子供たちが書いた言葉や話した言葉を受け止める教師の努力や感性が大切である。

「問い直す」という活動は、思考を外に出すことが前提である。一度、外に出さないと、見つめてまた考えるという行動にはつなげていかない。その意味で、問い直す活動は非常に価値のある活動だと、感心しながら見ていた。

今回の2つの授業では、色々な手立てが取られていた。友達とのコミュニケーションによって思考を外に出させようとする工夫、アドバイスカード等異質なものと出合わせる工夫などである。それらの手立てによって、子供たちは自分の考えとの違いを発見し、新しい見方や考え方を手に入れていた。

新学習指導要領が公示され、思考力の育成などが話題になっているが、私は、思考力は1人1人の中でしか熟成しないと考えている。話し合いやコミュニケーションをさせるときに、それらの活動を通して1人1人の思考力は育っているのかということをも常に考えていかなければならない。そのためには、難しいかもしれないが、子供たちが1人で思考する機会を保障してほしい。子供たちが試行錯誤する中からしか、子供たち1人1人の思考力は高まってこないのである。